

第5号様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第4回清須市子ども・子育て審議会
開 催 日 時	平成26年3月24日（月）午前10時から
開 催 場 所	清須市役所清洲庁舎 2階 202会議室
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>（1）子どもの人口推計および保育ニーズ量の見込みについて</p> <p>（2）アンケート結果からみる「保育園・幼稚園ニーズ」について</p> <p>（3）アンケート結果からみる「放課後の過ごし方ニーズ」について</p> <p>（4）今後のスケジュールについて</p> <p>4 閉会</p>
会 議 資 料	<p>会議次第</p> <p>資料1 子どもの人口推計及び「量の見込み」</p> <p>資料2-1 アンケート結果から見る「保育園・幼稚園ニーズ」</p> <p>資料2-2 保育園と幼稚園の統廃合計画</p> <p>資料3 アンケート結果から見る「放課後の過ごし方ニーズ」</p> <p>資料4 今後のスケジュール</p> <p>資料5 清須市子育て事業計画ニーズ調査結果報告書</p>
公開・非公開の別 （非公開の場合は その理由）	公開
傍 聴 人 の 数 （公開した場合）	0人
出 席 委 員	小川委員、村瀬委員、日下部委員、花井委員、赤尾委員、塚本委員、中川委員、藤田委員、荒井委員、安藤委員、星野委員、建部委員、谷委員、原田委員、中田委員、福田委員、富田委員、小原委員
欠 席 委 員	堀田委員
出 席 者（市）	櫻井教育部長
事 務 局	〔子育て支援課〕林課長、杉村主幹、伊藤副主幹、浅井係長
会議録署名委員	安藤委員、星野委員

1 開会

●事務局

皆様おはようございます。

定刻となりましたので、ただ今から「清須市子ども・子育て審議会」を開始します。

本日は、お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、子育て支援課の林と申します。よろしくお願いいいたします。最初に、事務局から出欠状況について、ご報告させていただきます。本日は、堀田委員は欠席のご連絡をいただいております。会議及び会議録につきましては、清須市附属機関等の会議の公開に関する要綱において、個人情報など非公開という扱いをしているものを除き、原則公開することになっています。従いまして、本会議及び会議録は公開とさせていただきますので、よろしくお願いたします。それでは、会長からご挨拶お願いいいたします。

2 あいさつ

○会長

おはようございます。本日は良い天気です。春そのものになりました。例年のように、皆さま年度末でお忙しいと思いますが、お集まりいただき、ありがとうございます。例年通り、今日も桜たよりが放送されていましたが、例年と少し違うのは、マスコミを見て感じていると思いますが、消費税の増税の関係で、3連休なども大変だったと、そして、デパートが盛況であったとのことでした。消費税の増税分が子育て支援や高齢者の対応など、社会保障のためにあたるはずが、余りにも消費者が今のうちに使われると、消費税が減ってしまうのではないかと危惧をしています。また、いろんな面で、放送やインターネットで便利になったが、先日のベビーシッターの事件、事故、犯罪が起きました。今回の事件を見ると、子育て中のママを助けることのできる体制になっていないような気がします。自分の子どもを知らない人に預けなければいけない状況はとてもさびしく思いました。高齢者はショートステイという形で、老人ホームで対応できていることもあります。これからの問題として、子育てが大事な中であのような事件が起きてしまったことを心配に思っています。安心して子どもを産み育てていくために、この会議においても、忌憚のないご意見をいただき、本市の子ども・子育て支援事業計画を策定していきたいと思っておりますのでお願いたします。今日の資料は手元にあると思いますが、10月に実施したアンケート調査結果から、保育園や幼稚園ニーズ量、放課後過ごし方のニーズの量など、事務局から報告していただき、その後、来年度のスケジュールについても、提案されます。来年度は子育て環境にふさわしい事業計画を策定していく必要があるため、よろしくお願いいいたします。

●事務局

それでは、議事に移らせていただきます。会議の議事進行につきましては規定により会長が務めることになっております。小川会長よろしくお願いたします。

3 議事

- (1) 子どもの人口推計および保育ニーズ量の見込みについて
- (2) アンケート結果からみる「保育園・幼稚園ニーズ」について
- (3) アンケート結果からみる「放課後の過ごし方ニーズ」について
- (4) 今後のスケジュールについて

○会長

それでは会議の進行をします。お願いします。始めに本日の会議の会議録の署名委員を安藤委員と、星野委員にお願いしたいと思います。それでは、4つの議題について事務局から一括して説明をしていただいた後、意見を頂ければと思います。なお、会議録を作成するため、発言者にはマイクを渡しますので、ご使用ください。

●事務局

(事務局説明)

○会長

スケジュールは、後ほどでよろしいでしょうか。大事な説明で、皆さんの意見を一括していただければと思います。それぞれの立場で、感じたこと、日ごろ思っていることをいただきたいと思います。保育所や幼稚園、放課後の児童の過ごし方についてであります。限定せずになんでも結構です。

○委員

客観的に、資料を見たときに、いろんな要素があって一概には言えませんが、0歳児から預けたいという方が、年々増えているのは、個人的には嫌だなと感じました。でも、就学前児童の保護者では、小学校低学年も高学年もアンケート結果では、自宅で見たい、育てたい、部活に専念させたいなどの割合が高いので安心しました。私は春日地区に住んでいますが、夢の森保育園がなくなり、ネギヤ保育園が増築されると聞いています。私が、春日に嫁いできたときは、田畑ばかりでありましたが、近年は一戸建ての住宅が多くできて、若い人の入居が増えてきたような気がします。また、私達の年代の子どもが、成長して結婚して、この春日で新居を構える人も増えてきています。そういうことは、このあたりは住宅が増え、また区画整備が行われ、いまでは小学校、中学校、春日支所、夢の森公園、美術館、図書館などがあり、素晴らしい文教地区といってもいい環境になってきたと思います。桜が咲くと、とても素晴らしい環境でもありますので、変な施設が建ってしまったら、春日地区の住民としては悲しいことです。ここに、まとめとして書いてありますが、私立幼稚園の設置が必要であると書いてあるので、是非とも夢の森保育園の跡地に私立幼稚園を設置してもらえれば、とてもよい文教地区になると思います。それと春日に新居を構える人は、土地の問題もあり、親の援助で新居も構える方も多くいます。私立幼稚園が出来ると、他地区から通ってもらうこともあり、活気が出て、さらに新たな発展にもつながり、活発な清須市になるのではと思います。是非とも、夢の森保育園周辺は文教地区ということで、私立幼稚園の設置を要望したいと思います。

○会長

春日の現状から見ての意見と、近代都市の春日地区になっているわけで、保健所まで春日に来ることになっていますので、素晴らしい地域になっている中での意見でありました。私は花水木保育園の近くに住んでいます。保育園周辺を他市町の名前の入ったバスが往来しています。保育園のすぐ近くに住んでいる保護者が、他市町の私立幼稚園に通っている状況となっています。母親が勤めていないから、保育園にも通えないし、清須市に私立幼稚園がないからかと残念だなと眺めています。今の意見、未就学の保護者からみれば、あのようなバスを利用したいと考えているであろうと考えています。自分たちの実態からも考えて、希望を出していってもらえれば、審議会は続くので、事務局が考えてもらえると思います。

○委員

アンケートで、気になったところは、病気やけがの対処について、仕方なく子どもに留守番させたという回答が未就学、就学児にありました。親が休めない状況で、子どもに留守番させるのは危険を伴いますので考えていただきたいと思います。私たち保育サポーターのえぷろんとしても、このような状況も知っています。大雪の時に、おじいちゃんに子どもの面倒を頼んでいたが、来られなくなったので、えぷろんに見て欲しいということがありました。その時は、下の子は保育園に送ることができましたが、上の子は仕方がないので留守番させたということでした。えぷろんでも人がいなかったの、後で親に確認したところ、最初は元気でいたが、途中で泣きながら職場に電話をしてきたということで、子どもにとっては不安だったと思います。病児保育の充実や、親が休めればいいが、出来ない場合もあるので、病院と併設できるような保育環境があったらいいと思います。

○会長

心配なく預けるところがあるといいですね。しかし、先日のベビーシッターのようなところが入ってこられたら心配です。

●事務局

小さな子どもだけで、留守番させるのは危険かと思います。そうしたことがないような体制づくりとして、市ではファミサポを運営していますが、預ける前に登録しなければ利用できないということもあります。しかし、今後もできる限り保育サポーターのえぷろんさん、タイムさんと連携しながら、預けやすい環境づくりに取り組んでまいりたいと考えています。病児保育については、市では現在、病後児保育を2か所の保育園で行っています。病児保育については、医師が必要になりますので保育園では難しいです。ただし、医療機関で病児保育を行ってもいいというところがあれば、検討してまいりたいと考えています。

○会長

対応も考えていただいているし、今後も考えてくということですよ。

○委員

公立幼稚園と私立幼稚園で対応していくと書いてありますが、私立幼稚園ができたとしたら、西枇杷島第一幼稚園を閉鎖するということではなく、お互いに公立と私立

が相乗効果を高めながら行っていくためには、公立幼稚園も残しておいていただきたいと思います。今後なくすことは考えていないですか。

●事務局

公立幼稚園については、西枇杷島第2幼稚園は閉園をしておりますが、西枇杷島第一幼稚園については、現状のまま当面残して、幼稚園ニーズに対応していく予定であります。

○会長

公立・私立の関係についての意見でした。保育所関係で、意見はありますか。

○委員

先ほど会長からの挨拶にもありましたが、大変悲しいニュースがありました。清須市ではファミサポなどがありますが、預かった時間帯は、夜は何時ごろまでですか。また、泊りなどの要望等はあるのでしょうか。具体的なお話を聞きしたいと思います。平成19年に学童保育と放課後子ども教室を合併したような放課後子どもプランができましたが、アンケートで、清洲小学校の校区では両方あります。しかし、清洲東小学校では、放課後子ども教室はありません。アンケートを見ますと、周知されていないことがみられ、自分のところに子ども教室が欲しいというところまでは分からないと思います。声が上がってこないのかもしれないが、是非、学校間に差がないように、東小学校にも放課後子ども教室があればと思います。また、18ページに認定こども園がありますが、実際にはどこか認定こども園になっていますか。

○会長

3点について質問がありました。

○委員

えぷろんとしては、早くて9時からで過去に1回だけ、お泊りをせざるを得ない状況はありました。母子家庭で子どもが救急車で運ばれてしまい、下の子どもが4ヶ月くらいだったと思います。普段から関わりがあったので、赤ちゃんを預けざるを得ないことがありました。共働きの親の場合には、早朝保育が始まる7時半ごろまでみて、それから保育園に連れて行って欲しいということがあり、近くのサポーターが対応したことがあります。

●事務局

ファミサポと認定こども園についてお答えします。ファミサポの活動時間は朝の7時から夜の7時までとなっています。しかし、依頼会員さんの都合により時間内に終わらないケースもありますので、そうした場合には個別に対応しているのが実情です。また、認定こども園については、市では認定こども園は考えていません。問18は、今後利用したいかという設問となっていますので、今後、認定こども園を利用したいという割合になっています。

●事務局

子ども教室の件については、4つの小学校区で実施していますが、実施している校区では認知度が高いので問い合わせが多くなっていますが、実施していない校区は認

知度が低いので実質、問い合わせが低いのは事実です。一般市民からは、他の自治体の例をだされて、将来的にどうかということも聞かれます。教育委員会としても、4校で終わりではなく、子どもの居場所づくりも考えていかないといけないと思っています。今後、学校の場所で行うことが安全性を確保できると思いますので、空き教室などの使い方もいろいろあると思いますが、放課後子ども教室については、検討していく必要があるかと思っています。

○委員

私たちも設立した理由は、親の支援を長く行っていた時に、親同士が話し合ったときに、どのようなことをしたら、お母さんを支援しやすいのか、子どもにも親にもどのようにしたらうまくいくのかを話し合いました。その時に、困った時だけででもいいということで、その当時はファミサポがなかったので、ニーズが多くありました。お母さんのニーズに応えるには、状況を知り、こちらから何時から何時までと設定をしていませんでした。お母さんに合わせたニーズに応じてきました。それは組織が違うのでできましたが、ファミサポができてからは、ほとんどこなしていただいているので、緊急時等の対応などを行っており、受け皿として開いています。友達との情報交換をしているようなので、緊急や時間外などはないです。ただ今回の事件のようにインターネットなどが普及されてくると心配です。そのため、なるべく親と話す機会は設けています。

○委員

市として、具体的に近い将来認定こども園は考えていないのでしょうか。

●事務局

市として認定こども園を行うということは考えておりません。認定こども園は国が勧めているため、設問には入れてありますが、県下でもあまりないということも聞いております。市では、保育園・幼稚園のガイドラインの中でも触れさせていただいておりますが、認定こども園は、民間で学校法人や、社会福祉法人から申し出があった場合に積極的に検討することとなっています。

○会長

ありがとうございます。

○委員

91ページの間28が気になりました。今後の保育幼児教育で重要なものとして、集団生活のルールや決まりなど、社会性の育成が70%、豊かな心を育てることも行ってくださいという意見もありました。子どもを預けることができる、安心と安全は確保されたが、その中で子どもをどう育てるのかを、全てをゆだねられては困ります。親が家庭できちんとして、子どもが、ルールや決まりを守ることや、規則正しい生活習慣を家庭で育てること。そして豊かな心を育てる親であって欲しい。ここ3年は親の育ち、親と一緒に育ちましょうというワークショップをやっています。親と一緒に話す機会がありましたが、意外と親はちょっとしたヒントが、喜ばれました。時間を割いてでもやる大切さに気がつかれて、若い親が忙しいのは分かりますが、ふと子ども

もを考える時間がない、どうしていいかが意外と分かっていませんでした。一生懸命だけど、先輩は失敗しながら、親と関わりながらやってきたなかで、ようやく、お母さんと一緒に考えられることができてきましたが、未だに70%もいるので、お母さんは素直で、前向きで、どうしたら子どもと向き会えるかを考えている親がいっぱいいます。その場所がない、毎日に追われて、子どもを安心して預ける事まではできるが、子どもと寄り添って、子どもと向き合って、この時どう声をかければいいのかなど、ちょっとしたヒントを与える場がないので、自主的にグループを作って、学校にいています。親が抱えている問題を聞いて、アドバイスをしていますが、この結果をみて、十分事はやっていると思っています。ただ考えないといけないのは、忙しい親の気持ちを受け止める、子どもと上手く向き合っていける場所がどこにあるのか。情報もどうすればいいのか。県も動いており、親育てを熱心にやっていますが、現実の問題になっているので、少し意見を聞きたいと思いました。

○会長

日ごろ、親育てに頑張ってもらっていますが、その場づくりについても、何か考えて見えたらお答えください。

●事務局

子育て支援を受けられる場所については、児童館や子育て支援センターを利用していただくことが一番だと思っています。子育て支援センターは春日地区、新川徳、清洲地区でそれぞれ保育園の中にあります。西枇杷島地区には子育て支援センターがないということもあり、平成27年度に建設予定の新保育園の中には、子育て支援センター機能を兼ね備えたものとしていく予定です。

○委員

資料を見ながら、親が、子どもが2、3歳になったら働きたいという希望がありましたが、2、3歳までであったら、おっぱいを飲ませて、睡眠をとらせることは出来ると思いますが、2、3歳からこころの情操、親の愛情をしっかりと受け止めて行くことが大事だと思います。女性の社会進出が大事だと思いますし、職場の状況を見ても、IT関係は1年育休とったら、ついていけない状況かと思っています。子育てしながら早く職場復帰を早くしたいというのは分かりますが、自分の子どもを本当に要望が出ているような子どもに育てたいと思うのであれば、家庭はすごく大事だと思います。職場も大事ですが、家庭で子どもとどう向き合うかを教えていただける機会があるといいと思います。親が仕事に一生懸命だと、分かっているけどできないところがあります。そういうところを民間なり行政なりで埋めていっていただくと、未来を担う子どもが心豊かに育ってくれると思います。さきほど委員から、親育てと出ましたが、本当に子育ては十分だと思います。親育て、特に父母を育てていってもらえる機会が欲しいと思います。

○会長

そうですね。最近では、虐待などもあると思います。

○委員

若い親の一般論として、0歳児から預けた親の気持は、第1子ではなく、たぶん第3子以降の割合が高いと思います。3歳未満は無料となったときから高くなったのではと思います。ママ友の意見では、無料になったから、3人目を考えるという人はいました。春日地区は3人子ども生んでいることが多く、行政の意図通りにいっています。3人目が多くなっており、その割合になっていると思いますが、その代わりに0歳児に預けるのかという矛盾な気持ちもあります。さきほどの集団生活のルールや決まりを育てて欲しいというものの気持ち的には、一般論として、集団生活は家庭では養えないと思っており、家でいい子、外で悪い子が心配で、外で人とかがかわれるかどうか。親同士では、親の前ではいい子であるが、保育園ではやんちゃという話もよく聞きます。そのあたりはベテランの方の意見で、気づいていない親に声をかけてあげるなど、気づいていないところを気づかせてもらいたいと思います。そういうところ、分かっていないところを親育てとして教えていただきたいと思います。そういうところを、子どもに育ててもらいたいという希望です。保育園の願い、子どもへの願いです。こころ豊かに育てるのも、忙しいからだと思います。家ではカツカツな時間であるが、保育園のほうは時間が長いので、求めている部分ではないかと思います。ファミサポが春日地区では認知されていないが、病気の時に預かってもらえるということも聞いたことがないので、地域によってばらつきがあると思います。そのようなシステムがあるのであれば、実家が近くにない人でも安心かなと思います。広報をしていただきたいと思います。

○会長

締めの方に向かいたいと思います。

○委員

春日地区でもファミサポに登録をしていて、やって見える方はいますので、春日にはえぷろんなどはありませんが、市が行っているファミサポに登録して、行っていますので、知らないだけなのかもしれません。

○委員

広報で見たことはありますが、広報だと敷居が高く感じ、登録までいかないのではないのでしょうか。

●事務局

ファミサポの認知度が春日地区には低いということがありましたので、子育て支援センターや児童館などを通じて、啓発活動に努めてまいりたいと思います。また、保育料の3人目の無料化については、県では縮小傾向にありますが、清須市においては市独自で続けてまいりますので、よろしく願いいたします。

○委員

私たち、えぷろんとタイムも子育てで感じていることなどについて、グループヒアリングを行いました。12月の会議でその結果報告がされるかと思っていましたが、ありませんでした。今回はあるのかと思いましたが、今回もありませんでした。それはどこで反映をされるのでしょうか。

●事務局

忙しい中、グループヒアリングに参加していただき、ありがとうございました。意見については、とりまとめてはいますが、少し纏め方を整理する必要がありましたので、資料を修正させていただいています。したがって、少し遅くなり申し訳ありませんが、次回の審議会にはご報告させていただきたいと思っています。

○会長

時間が来てしまいました。本日、皆さんが発言をされたことの中で、親の教育が必要ではないか。また、高齢者がいっぱいになる時代で高齢者問題もあるかと思います。最近では、寿命も伸びて、高齢者が増えてくる中で、集団のルールや親の勝手が多いというのは、社会福祉協議会で、異世代交流ルームがあり、その状況をよく見ていると感じます。こうした問題は、家族制度から来ているという結論になってしまいます。親と同居して生活しているのは珍しくなっています。同居するのが何故かという時代となっています。時代が変わってきています。知恵を持った高齢者も、子育て支援の中で利用することがあったと思いますが、いろんな場で交流が深まれば良いと思いました。これらの意見を基にして、次年度も進めていくわけですが、何か意見はありますか。

○委員

今日は活発な意見をいただき、非常に勉強になりました。3点質問と感想です。アンケートで2番の保育園幼稚園ニーズについてですが、公立保育園の整備において、充足されるということがありますが、量的にはあるが、国の指針では質量ともの拡充が挙げられています。質的な観点から、認定こども園、保育園については教育機会均等化に繋がり、幼稚園にとっては一時預かりの給付対象になる。子どもにとっては、生活のステージが地域密着になりメリットの多い施策だと思っています。認定こども園への移行、小規模型保育、地域型保育への言及がないということと、質的な部分をどのように考えていくのか。あと保育士の養成についても、研修制度や、情報公開についてもどのような方向性があるのかを聞きたいです。資料3の放課後のニーズについては、放課後児童クラブより放課後子ども教室のニーズが高いことができています。国の施策においては、放課後児童クラブの拡充が、きめ細かい放課後の提案ということもあるので、質的に放課後子ども教室でカバーできると考えているのでしょうか。感想としては、地域の方が、子育てにかかわっていて、頑張っていると思いました。その中で、日本は諸外国に比べて、母に対する期待、性的役割、母親が子育てをという目が強いと思います。良い、悪いということではなく、調査などから、これから家族というものも、ひとり親世帯が増えたり、経済的にも父親だけでは成り立っていかないという中で、子育てを母親に期待するよりも、母親の周りが協同して、お母さんを支えていく立場で子どもを育てていくという体制が、日本という国は遅れているので、そういった視点もあると、母親も楽になるのではと思います。

●事務局

保育園幼稚園のニーズで、国の指針では質量ともに求められています。現在ある公

立保育園、幼稚園の中で、質を高めるとともに、私立幼稚園の設置を考えていく必要があると思っています。清須市に住んでいる400人以上の子どもが市外の幼稚園に行っている状況ですので、市内で受けられる幼児教育の環境づくりを取り組んでいきたいと思っています。また小規模保育や地域型保育も条例化を定めていく必要性があれば検討していきたいと思っています。保育士の確保については重要であると考えています。市内や市外の研修を受講してもらい、質を高めるとともに確保も重要だと思っています。現在、正規職員は120人程度いますが、正規職員に加えて臨時職員の力もとても重要であるので、臨時職員の確保も心掛けています。放課後児童クラブの拡充ということで、放課後児童クラブは6年生まで拡充ということが言われています。その中で、アンケート結果では高学年のニーズが少なかったところです。少ないからといって行わなくてもいいということではなく、少ないにニーズでも対応していく必要があると思うので、26年度で条例制定を行っていく必要がありますので、皆様方と議論を重ねて、どのような体制を整えていくべきかを検討していきたいと思っています。

○委員

私立幼稚園の拡充や保育園の質を向上していくのは理解できるが、入れる側からすれば、私立幼稚園と他の幼稚園、保育園では教育保育の質が全く違ってきます。それを認定こども園にすることは、どのような働き方をしている親に対しても、経済的にある程度の違いがあっても、一定の教育保育が受けられる意向もあります。その辺を私立幼稚園の誘致や保育という、厚生省の枠組みの中での教育、文科省の幼稚園教育の枠組み、違った枠組みの中で質を上げることによって、それぞれの働き方であったり、経済的なものや地域性などの条件が違う子どもたちが一定水準の教育を受けられるという考えでよろしいでしょうか。

●事務局

水準というものがどこまでのものを差すのかはありますが、保育園の中でも教育の部分を取り入れて行っています。現状の中で、幼稚園と変わりがないという考えの中で取り組んでいます。幼児教育となると、私立であると、それ以外の私立幼稚園の特徴である英会話とか、スイミング、習い事などを取り入れられた幼児教育的なものの私立幼稚園があればと思っています。現状では、認定こども園の声があれば前向きに考えていきたいと思っています。

○会長

ありがとうございます。今後に向けて事務局に考えていただきたいところが出てきておりましたので、来年度も楽しみにしています。保育の中と、現状の親のアンケートを基にしての話し合いでありましたが、子育て審議会としての、保育園の認定こども園化かではなく、新たな幼稚園の設置の意見をいただきました。放課後の児童の過ごし方の中で、子ども教室が偏っている。将来、夢の森保育園に私立幼稚園が設置されるように、事務局に我々の意見を出していければと思います。今日の意見をまとめながら次に努めて良ければと思います。

(4) 今後のスケジュールについて

●事務局

(スケジュール説明。)

○会長

今、説明がありましたように、今後はこのような形で進んでいきます。委員の入れ替わりもあると思いますが、完成に向けて関心を持って取り組んでほしいと思います。長時間ありがとうございました。

●事務局

4回目ということで活発な意見をいただきありがとうございました。意見を踏まえまして計画策定に取り組んでいきますので、よろしく願いいたします。

4 閉会

上記のとおり会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成26年 4月23日

委員 安藤志乃 ㊞

平成26年 4月23日

委員 星野好美 ㊞